

2019年度「復興デザイン学」夏学期月曜6-7限18:45-21:00 @ 1号館15番教室

一時間レクチャー、一時間質疑応答というスタイルです。しっかり質疑応答に参加してください。

■シラバス

4月8日 opening (0) 小野田泰明先生 (東北大学、建築計画)

19:30 始まりは、本回のみ (以降、18時45分)

「過酷な状況におけるデザインの場所 -東日本大震災・復興の経験から-

4月15日 (1) 西村幸夫先生 (神戸芸術工科大学←都市工) 復興デザインのための風景の読み解き

5月13日 (2) 富田宏先生 (漁村計画研究所) 漁業と復興、漁村の風景

5月20日 (3) 江川直樹先生 (関西大学、建築設計) 阪神淡路大震災後の芦屋市若宮地区の集合住宅設計

5月27日 (4) 姥浦道生先生 (東北大学、都市計画) 東日本大震災全般、既往研究多数

6月3日 (5) 円山琢也先生 (熊本大学、交通計画) 熊本地震全般、益城町などで大学と行政のコラボ

6月10日 (6) 菊池雅彦先生 (復興庁) 東日本大震災以降は特に被災地の多くで任務経験、国土交通省

6月17日 (7) 井本佐保里先生 (日本大学、建築、復興デザイン研究体) ネパールの復興、アフリカのスラム

6月24日 (8) 塩崎賢明先生 (立命館大学←神戸大学、都市計画) 阪神淡路大震災以来、復興災害を厳しく批判

7月1日 (9) 最終回 (学生発表)

7月8日の午後は、復興デザインスタジオの最終発表を予定しています。スタジオ履修していない方もどうぞ聴きにいらしてください。

■課題

講義の中から一つの回を主要な対象として選び、他の回とも関連づけ、既往研究のリサーチもふまえて、復興デザインが向き合うべき論点を設定して、それを論じてください。たとえば以下のような論点を想定しています。

- ・非日常の復興デザインとして有益な、日常の地域デザインとは何か？
- ・復興時に期待される地域の自然 (じねん) 性は、如何に醸成されるか、引き出せるか？
- ・縮退の時代における復興像とは何か？
- ・どうしたら事前に備えられるのか？
- ・安全性を高めつつ、その地域に固有の暮らしを支える空間の設計とは何か？
- ・低頻度の巨大災害と、高頻度の小規模災害において、それぞれの復興デザインはどうあるか？

講義の(0)から(6)までを対象として、A4用紙6-10枚程度、6月24日18:30までにメールで提出してください。提出物は履修者全員で共有するので、あらかじめご了承ください。

窪田亜矢 (地域デザイン研究室) ak@td.tu-tokyo.ac.jp

以上